カナダ　UWC Pearson College　氏名　ハウカ瑛美里

留学期間：R6.8～R8.5（2年間）

三学期目が始まってから、時間の進み方がこれまでとは違って感じられるようになりました。１日が早く過ぎていく一方で、その１日１日には、これまで以上の重みがありました。私は現在、カナダのバンクーバー島のピアソンカレッジで三学期目を終えたところです。二年生になり、よりピアソンのコミュニティーに対する安心感が増したと同時に、去年に比べて新たな挑戦がたくさんできた半年間でした。IB 生にとって最も多忙とも言えるこの三学期目を通して、私は課題の量以上に、「時間」とどのように向き合うかを学びました。

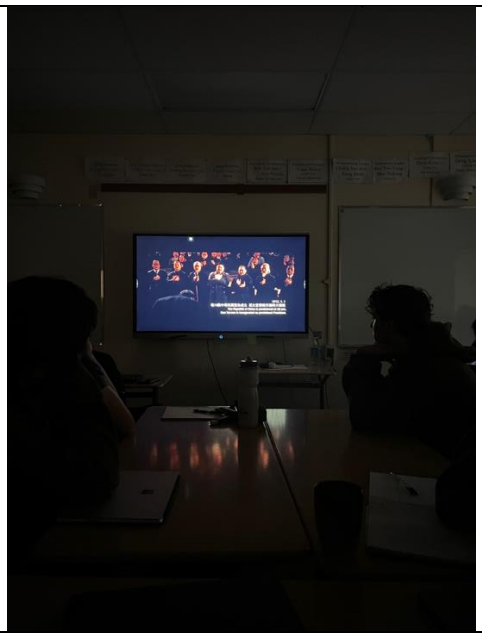
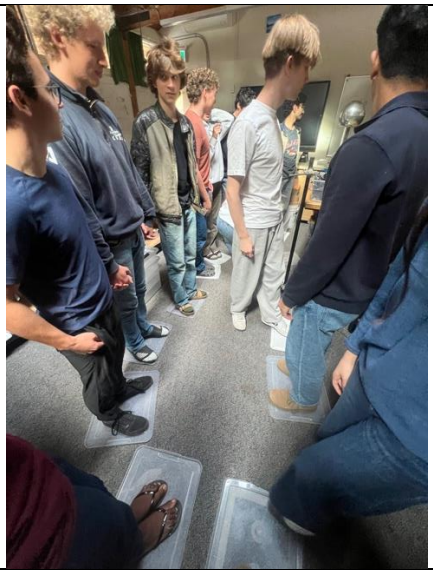
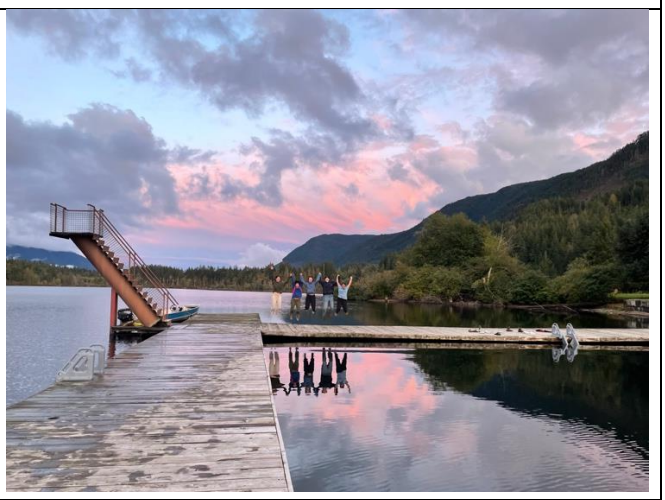
三学期目は IB 生にとって最も課題が積み重なる時期だと言われています。実際、日々の授業やテストに加え、Extended Essay と言った論文や Internal Assessment と言った各科目のレポート、そして大学に提出するエッセイを同時進行で終わらせなければいけませんでした。学期が始まる前から先輩たちにその大変さを聞いていた私は、心構えをして新学期を迎えましたが、実際に始まると、想像以上に時間に追われる日々が続きました。一つ一つの課題をこなす事よりも、それらを同時に管理することが難しいと感じました。そこで、毎日目につくホワイトボードに、締め切りごとに優先順位を立てたスケジュールを書き上げました。長期的な課題は細かく分けて進めることで、限られた時間を意識的に使うようになり、効率的な時間の使い方の重要性を学びました。

こうした忙しさの中でも、私が三学期目を乗り越えることができた背景には、大変さを共有し、時には何気ない会話を交わす時間があったことです。二年生になり、キャンパスでの心地よさが増したことで、去年に比べてより多様な人間関係を築くことができたと感じています。仲間との共有される時間は、忙しさの中で孤立するのではなく、互いを支え合う力となりました。その一例として、食への愛が強い仲間と、今年新たに形成した「ラーメングループ」があります。このグループは、勉強の合間に皆でラーメンや餃子を作り、食事を共にすることを目的として始まりましたが、去年はほとんど関わりのなかった生徒たちとも自然に交流するきっかけとなりました。このような日常の中で生まれたつながりが、忙しい三学期目を支える大切な時間となっていました。一方で、このように多くの時間を仲間と共有する生活の中で、約２００人と共同生活を送るからこそ、自分一人の時間を確保する難しさに気づきました。

一年生の時は周りについていきながら友達関係を築くことに必死で、自分自身と向き合う時間を大切にできていなかったと感じていました。その反省から、二年生の三学期目では自分の時間を一日に最低一度は意識的に設けるように心がけました。その中で特に大切にしていたことが三つあります。一つ目は、陶芸室で過ごす時間です。水辺に向かう大きな窓ガラスがある陶芸室で音楽を聴きながらコップや皿を作ることで、日常から少し距離を置き、自分の作品に集中することができました。二つ目は、森の中の散歩をすることです。ピアソンのキャンパスを囲む木々の中で散歩をすることで心身ともにリラックスすることができ、考えを整理しながら軽い運動をする時間にもなりました。三つ目は、お菓子作りです。私は寮の中でお菓子作りの役を任されるほど、クッキーやケーキなどを作ることが大好きで、この時間は自分らしさを取り戻す大切なものになりました。

最後になりますが、多様性にあふれるピアソンでの環境で、毎日新たな学びができることを可能にしてくださった奨学金支援者の方々に心から感謝しています。IB の最終試験に向けて勉強を頑張りながら、ピアソンのキャンパスと人々との残りわずかの時間を大切にしてきたいです。これからも、応援よ

ろしくお願いします。

	
日本人メンバーで近くの街のイベントで撮った写真	歴史の授業で「ミッド・ウェー」という映画を鑑賞した時
	
物理の授業で静電気の実験をした時の様子	アジア地域の仲間の集合写真
	
散歩した時に見つけた特殊な形の木	十月にアカデミックウィークでキャンプイマディンといったところで一週間を過ごした時

ハウスオリンピックの前日に寮で応援のサインを作成した時の様子

近くに住む日本人の家庭で食事を作っていただいた時の様子

学校の近くの Race Rocks という島で一泊を過ごした時に撮った写真

ハロウィンでカボチャをルームメイトと一緒に掘った時の様子

ビクトリア市で行われたクリスマスパレードに参加した時

自分で作ったシナモンロール